

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年12月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300948
法人名	有限会社 辛卯
事業所名	グループホーム 和みの家
所在地	鹿児島県鹿屋市西大手町8190番地1 (電話) 0994-40-7855
自己評価作成日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ひとりひとりの残された力を表現できる様な自立支援。
- ・家庭的な環境で、信頼できるスタッフとの馴染みの関係づくりをする。
- ・地域との繋がりを大切に連携しながら、行事やイベントに参加したり、ホームへ来て頂く楽しい生活づくりを行う。

- ・このホームは、生活に便利な場所に建てられ、静かな環境のなかで、その人らしい暮らしができるように、職員が一丸となって支援している。
- ・シルバー人材センターを利用し、食事づくりを依頼するなど臨機応変に対応し、入居者本位に、家庭的な環境のなかでゆとりのある関係づくりを目指している。
- ・毎月家族には、「今月の様子」という便りを届け、普段の様子や身体状況まで細かく報告し、家族に喜ばれている。
- ・運営推進会議は円滑に行われ、災害時における対応も体制が整い、地域行事の参加や交流も深めている。
- ・職員の研修も積極的で、職員各自が、自己研鑽にも励んでいる。
- ・市担当者との関係も密であり、事業所・職員・医療・地域・行政が一体となり、入居者と家族の安心と安全につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱和し、毎月のミーティングやケア会議時に理念に添った支援が来ているか確認を行っている。職員間で、ケアの振り返るようにしている。	開設当初からの理念に加え、地域密着の内容を持つ項目も掲げており、毎朝礼で唱和し確認している。職員は、理念をよく理解し共有するとともに、よきケアを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、奉仕作業や行事に参加したり、近所を買い物や散歩している時など会話される。	町内会の奉仕作業に出席したり、地域行事にも入居者と参加している。また、買い物や散歩のときに地域住民と会話したり日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験や地域の人より高齢者の支援方法や受け入れ先等の相談を受けることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動・災害対策などに区長、行政からの意見を参考にしながら取り入れられることはサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、地域代表・行政・近隣の他のグループホームの代表、家族の代表等参加して開催している。入居者の状況や問題点、また、地域の行事への参加や災害対策などを話し合い、サービスの質の向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>電話や窓口で相談や助言を得ることが多く、とても協力的で会議参加の時も新しい情報を持参くださる。</p>	<p>日常的に市の担当者との関係は密で、事業所の様子やケアについて相談し、また情報も提供してもらい、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に勉強会など開催している。また、ケア会議では現在身体拘束していないか、廃止に向けて検討結果の報告している。</p>	<p>身体拘束の具体的な行為を、職員すべてが理解できるように勉強会を開催している。玄関の施錠や言葉の拘束等を含め、ミーティング等で意見を出し合い、よりよいケアに向けて取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング時に定期的に虐待についての研修を行ない、身体的、精神的虐待にならないように、各スタッフで気をつけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を得る研修参加の機会を作っているが、現在は活用するような利用者はいない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は丁寧な説明を行ない、疑問等に答えている。契約後の疑問点にもその都度説明し、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱設置、苦情窓口を掲示している事を入所時や家族会の時に伝達し、意見を述べやすい状況をにしている。</p>	<p>意見箱や苦情窓口については、重要事項説明のときに話している。家族会も年2回行われ、運営推進会議にも参加を呼びかけたり、また、面会時の普段の会話の中から意見を聞くことも多い。会議で検討し運営に反映している。今後、電話で家族との会話の中での意見が聞けるように工夫し検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>施設長は会議参加や利用者や買い物に出かけたりして、利用者・職員にその都度意見を聞かれている。</p>	<p>代表者は職員会議等に参加し、職員との交流も深い。会議では月目標の反省や、各委員会の報告、業務改善の意見をのべたり、検討したりして、職員の意見の反映に積極的に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>施設長は業務日誌や勤務表に目を通される。現場において職員の仕事ぶりを観察し、職員の増強や休暇を取り易くするように考えられる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は月1回実施、外部研修は勤務時に受講料や交通費も負担して頂き、研修後は研修報告書を回覧している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や老施協の研修で他施設との交流を図たり、運営推進会議では他グループホームよに来て頂き情報や意見を頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者・居宅ケアマネなどより情報を得て、ホームより本人の状態確認に行き、一日入所体験や見学で安心した関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始する時から話を聞き、今後、在宅サービス利用されるのか、入居された場合に起こり得る状態の変化を伝え、ゆっくり検討してもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や関係者より情報をもらい、希望に添うよう入居することを持ったり、見学を繰り返し、家族だけでなく、本人が納得するのを待つ。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が思っていることや希望されることを速やかに理解し、過ごし易く、話しやすい環境づくりに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子を記した文章を発送し近況報告している。処遇困難な場合は家族と対策を検討協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に立ち寄ったり、周辺へのドライブなどで生活習慣や環境の把握している。また知人や家族より情報を得ることや面会時はゆっくり自室で会話して頂いている。	自宅に寄ったり、墓参りや理美容院等の馴染みの場所や友人等との関係が途切れないように、また、生活習慣や環境との関係継続を、自宅にいるような暮らしの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いを理解しあえるように見守ったり、利用者同士のコミュニケーションが図れるように会話などに気をつけ支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後の見舞いに出かけたり、家族からの相談を受け、退院後居場所の支援をしている。また死亡時はお悔やみに出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや要望を把握できるよう気づきを多く持ち、家族の意見を聞きながらケアに反映している。	職員は、常に一人ひとりの表情やそぶりや癖を把握し、話をよく聞いて、意向を把握している。また、家族の意見を聞き、個々の要望に応えられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は居宅ケアマネや関係機関から情報を得ている。家族関係者から会話の中から、新たな情報を得る事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄、睡眠チェックを行ない個人のリズムの把握に努めている。介護職員と看護師が連携をとり、心身の状態を把握し日々のケアを実施。日々の過ごし方、変化は個人記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、家族の状況、要望を含め、状態の変化や希望に添っての申し送りやケア会議では、スタッフ皆で本人へのアセスメントを行ないプランを変更している。	家族の意見や要望を聞き、担当者会議で確認して、チームで介護計画を作成している。モニタリングは毎月の会議で行い、主治医の意見や家族の意見を含め、状態の変化や希望に沿って検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>排泄、睡眠・健康チェック表があり、日々の言動に対するアセスメント、個人記録や申し送りノート、ケア会議が情報共有の場になる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>看護師が協力医療機関と連携とることが、家族の安心に繋がっている。診察、通院リハ、栄養指導へ参加、福祉用具業者により個々にあった物が素早く導入できている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内行事への参加、近くのスーパーへ買い物、鹿屋市主催の木市に行ったり、町内会長はホームを訪れる機会が多く、利用者顔見知りになっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医へ訪問診療を依頼しており、家族の希望や同意を得て変更している。専門医受診が必要な場合、家族の希望される病院を聞き、同行を依頼することもある。</p>	<p>本人や家族の希望によって、かかりつけ医の支援をしている。また、協力医へ訪問診療も依頼し、専門医の受診が必要な場合は、家族の協力を得ながら職員が同行している。関係者で協力しながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は毎朝バイタルチェックをする。些細な変化でも介護職員は看護師に連絡し、指示を仰いでいる。看護師の判断で医療連携が出来ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院する段階で、医療的な処置を除き、家族の希望を確認し、施設対応は無理か確認している。入院の場合は、面会や主治医・相談員との面談を重ね受け入れ態勢を整え、出来るだけ早期に退院できるよう働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「健康管理と医療体制に関する対応規定」の説明を行ない、終末期には「重度化した場合の対応における指針」に関する同意書に同意を求めようとしている。介護職も医療知識を得るための研修に積極的に参加している。看取りの経験はない。</p>	<p>契約時に「健康管理と医療体制に関する対応規定」を説明し「重度化した場合の対応に置ける指針」を説明し、同意書に同意を得ている。状況に応じて本人・家族・医療関係者・職員の意見を聞きながら支援している。職員も医療知識を得るための研修に、積極的に参加している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>昼間は看護師の勤務し、夜間は連絡体制を作り、緊急マニュアルあり、消防署の協力を得て火災訓練時に勉強会を開いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策委員会を中心に定期的に避難誘導訓練を実施している。マニュアルを見直し備品の確認も行っている。町内の応援体制も出来ている。</p>	<p>定期的に、夜間想定 of 災害避難誘導訓練と、消防署立会いの防災訓練を行っている。町内会の協力で応援体制や連絡網も整備している。マニュアルを見直し備品や備蓄の確認も行っている。また、スプリンクラーも設置している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアル作成。排泄時の声掛け、排泄、入浴、更衣時の介助に注意を払っている。関係機関への情報提供は契約時に同意を得ている。	プライバシー保護マニュアルを作成している。個々人の自尊心、人格の尊重とプライバシーに細心の注意を払い、特に排泄時、入浴、更衣時は声かけに気をつけている。関係機関との情報提供は契約時に説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選んで着たり、好きな物が食べられるように、献立は利用者に聞きながら作っている。言葉にされなくても、行動により察したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、その中で、テレビを観る。リハビリに行く。散歩する。昼寝など個々の過ごし方が出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	昼間は普段着、夜はパジャマに着替えて」いる。常に髪を梳くために櫛を持ち歩いたりする利用者もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にメニューを聞いたり、相談したりして食事を決めている。じゃが芋の皮むきやゆで卵の殻取りなど手伝いされる。食事は利用者、職員一緒に食べている。	入居者に好みの物や食べたいものを聞いたり、季節の旬のものを取り入れ、食事をおいしく食べられるように配慮している。利用者の能力にあわせ、職員と一緒に調理を行い、食事を楽しむように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に偏りがないように献立と食材も記録している。食事・水分摂取量、排便、体重等が一目で分かるように記録し、ケアに生かされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶・食事前のうがい、起床・食後の口腔ケアは日課とし、お茶でうがいです。食後の歯磨き励行し、自分で方にはうがい後に歯磨きティッシュで拭きとっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿取り外し、リハパンから布パンツへ切り替え、ポータブル使用による夜間排泄自立へと段階を追って取り組んでいる。又、トイレでの排泄ができるように、仕草やトイレ間隔に注意している。	一人ひとりの排泄の癖やパターンを把握している。声かけや誘導によって、トイレでの排泄ができるように、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を促し、おやつや食事には、乳製品、さつまいもなどの繊維質の物を使用して排便を促している。定期的に緩下剤を服用している利用者も多いが、食事や運動により調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	汚染されたり、入浴希望が強い時は風呂に入ってもらおう。入浴時間や浴槽に入りたいことなど希望に添うように努めている。	定期的な入浴のほか、本人の希望に沿って入浴の回数を増やしたり、時間も希望に沿うように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足を挙げて浮腫の治療をされたり、ソファでの昼寝など個々に合わせて休息をとっている。昼夜逆転の利用者の方には、他施設への面会や手作業などで動いて頂き、夜間寝て頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を全て理解しているわけではないが、すぐに調べられるように、処方箋説明書があり、準備から与薬までの各段階で確認している。薬に「変更がある時は連絡ノート及び健康チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常は、エプロンたたみ、洗濯物たたみなど出来る家事を一緒に実施している。行事では個々の得意な挨拶や歌を歌うを読んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員の多い時間に、馴染みの美容院や買い物に出かけたり、玄関前での日光浴は、通りすがりの方との会話をする事で、気分転換を図っている。家族に協力して頂き外出される時もある。	日常的に、買い物や散歩を行っており、地域の人との会話や交流が図られている。本人に前もって希望を聞いて、馴染みの場所への外出も家族の協力を得て、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かり管理している。手元に少額の金銭を保持されているかたには、週1回確認している。面会者へ金銭が必要な時には、前もって準備し、本人が直接渡せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族への電話は歓迎して取り次ぎ、本人が希望する時は手紙を投函したり電話を掛けたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染み物を持って来て頂き、季節の花を飾ったり、家族の写真を飾るなど穏やかな過ごし易い空間作りに心がけている。	共用空間は、季節の花や作品が飾られ、天井が高く、採光や温度、匂いにも配慮している。入所者同士が快適に暮らせるように、過ごしやすい空間づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室とホールへの往来は自由で、テーブル席は好き嫌いや寒がり、暑がりを考え調整している。ソファは2箇所あり、浮腫予防のための両足挙上など行う利用者が多い。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物で、安らげる空間作りをしている。転倒防止のため、畳を敷いたり、ソファを置くなど工夫している。ベッドも本人希望の位置に移動できる。</p>	<p>在宅での馴染みの物を持ち込んでいる。居室づくりにも本人の意向に合わせて、ベッドの位置を決めたり、畳やソファを置くなど工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴槽には滑り止めのマットが敷いてあり、廊下には手摺りが取り付けられている。居室の配置も本人の歩行レベルに応じて、考慮して出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない